

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間: 2009年9月下旬から11月上旬までの旬別  
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業: さんま棒受網漁業  
 対象魚群: 南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量: 9月下旬は中位水準で推移する。10月から減少を始め、10月中旬には低位水準となる。11月上旬は断続的となり、終漁となる。
- (2) 漁場: 9月下旬～10月上旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖が漁場となる。10月中旬～10月下旬は、落石沖の漁場は消滅し、釧路～襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は、襟裳岬沖の漁場も散発的となる。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 来遊量は徐々に増加し、9月下旬は低位水準、10月上旬には中位水準となる。10月下旬以降は、中位水準ながらも徐々に減少する。
- (2) 漁場: 9月下旬は三陸北部が主漁場であるが、10月上旬には漁場が三陸南部まで広がる。10月上旬～11月上旬は三陸北部～南部にかけての広範囲に漁場が形成される。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月上旬は断続的に来遊はあるものの来遊量は少なく、漁場ができるのは10月中旬以降となる(4.今年常磐海域における来遊予測について参照)。10月下旬には中位水準、11月上旬には高位水準まで増加する。
- (2) 漁場: 10月中旬は、常磐北部において漁場が形成される。10月下旬には漁場が南部まで広がり、北部～南部が主漁場となる。

### 2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位水準	中位減少	低位減少	低位減少	断続的
	漁場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	中位水準	中位減少	中位減少
	漁場	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	低位増加	中位増加	高位増加
	漁場			北部	北部～南部	北部～南部

### 3. 漁況の経過概要

(9月上旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、8月下旬をやや上回ったものの、前年を下回り、低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は、徐々に増加した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石～霧多布沖。厚岸～釧路沖、襟裳岬沖にも漁場ができた。

落石南～霧多布南の15～65海里付近(表面水温12～18℃)。連日、大型船と小型船が多数操業。大型船は、1晩で規定量漁獲できる船も多かったが、5～20トン程度の船もあった。小型船は10～20トン程度漁獲。

厚岸大黒島南20海里付近(表面水温13℃)では、7日夜に小型船が10隻操業し、数トン～15程度漁獲。

釧路南南東25海里付近(表面水温15～16℃)では、6日夜に大型船小型船合わせて30隻程度操業。大型船で最高40トン弱漁獲。

襟裳岬東北東30海里付近(表面水温18～19℃)では、6日夜に大型船が数隻操業し、数トン～十数トン漁獲。

##### (3) 魚体

30～32cmモードの大型魚と、26～27cmモードの中型魚主体。中型以下の魚の混じり具合は、2～6割程度。体重170～180g台が主体。

#### 4. 今年の常磐海域における来遊予測について

9月上旬における漁況の経過をみると、道東海域は低位水準ではあったものの、襟裳岬東沖に一時的ながら漁場が形成され、魚群は順調に南下していると考えられる。また2009年6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所(北海道教育庁北鳳丸(用船)、山口県立水産高校青海丸(用船))が中層トロールを用いて行った漁獲調査では、サンマの分布が今年も東経155°以東で多かった事から、今後もサンマの来遊は持続すると考えられる。本中短期予報結果では、10月上旬における三陸海域の来遊量は、中位増加傾向となり、三陸南部にも漁場が形成されると予測される。

独立行政法人水産総合研究センターと独立行政法人海洋研究開発機構の共同研究により開発されたFRA-JCOPE システムで計算された10月10日における海況予測結果(詳しくは、<http://fj.dc.affrc.go.jp/>を参照)によると、常磐海域南部の一部で黒潮の影響を受けるものの、常磐海域北部は三陸南部にある冷水域の影響を受け、三陸海域には南下を妨げるような暖水塊は存在しないことから、常磐海域へサンマが南下しやすい海況となっている(図1)。

漁況の経過、三陸海域への来遊予想および海況予測結果から、常磐海域へのサンマの南下は平年並であると考えられる。常磐海域の過去10年の平均初漁場形成日は10月中旬であり、昨年は10月14日頃であった。以上の事から、10月上旬には断続的に来遊はあるものの来遊量は少なく、漁場ができるのは10月中旬となる。

9月上旬における漁獲物の体長組成を見ると、体長31cmモードの大型魚と体長27cmモードの中型魚が主体であった(図2)。東北区水産研究所が2009年6月～7月に行った漁期前調査結果では、東経160°より東では中小型魚の尾数が非常に多かった事から、今後は中小型の割合がさらに増加し、主体となる。

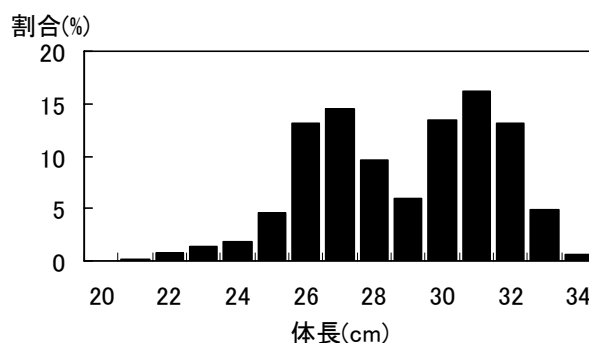
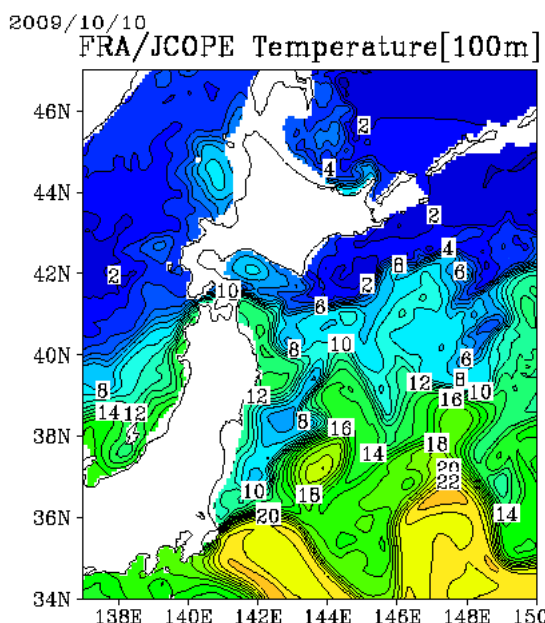


図1. 2009年10月10日の予測水温分布(100m 深)

図2. 2009年9月上旬のサンマ体長組成